哲学Ⅰ（月３）シケプリ１　　２００９夏学期

１,心の考え方（歴史）

歴史上初めて『心』という概念が生まれたのはギリシャ

ギリシャ語で『心』は『プシュケー』）

◇ピュタゴラス教団…魂の浄化の為に数学や音楽を実践

　身体は魂の墓場

　魂は不死,　輪廻する

◇デモクリトス…原子論を唱えた哲学者（原子：それ以上分割できないもの）

心も原子である

　心（魂）＝火, 熱いもの

　　　　　身体を動かすもの（生命の再現）

◇プラトン

　身体＝墓場説（ピュタゴラス教団と同様）

　魂は不滅な真の人間

　魂の三分説…理性的部分, 気概的部分, 欲望的部分

　　　　　　　　↓　　　　　↓　　　　　↓

　　　徳：　知恵・思慮　 　勇気 節度

それぞれの徳を最大限に発揮⇒正義が実現（四基徳）

◇アリストテレス

心は原子ではない

心（魂）＝生命の原理・根源、可視的な命の形相（⇔　身体＝質料）

⇒身体と心（魂）は分離できない

○理性（純粋な思考・観照に関わる）は神的・永遠であり、身体とは無関係

⇒プラトン・アリストテレス共通の考え方

* キリスト教

　魂→肉体に生命と意味を与える生命的原理・人間そのもの, 身体と一体

　　　　　　　　　　　　　　　 （旧約・新約聖書共通）

旧約聖書…魂は身体と結びついてのみ存在し、死とともに身体から離れ消滅

新約聖書…死後一時的に身体から離れる→最後の審判で身体と共に復活

* 古代インド
* ヴェーダ聖典（バラモン教の聖典）…インド最古の思想文献

　輪廻思想…死後も魂は存続し、別の身体（生物）に入るという考え

　解脱…輪廻から解放されること→ウパニシャッド（奥義書）の究極目標

* 古代中国

 霊魂→魂と魄(ハク)に分けられる

 ・魂…陽の部分, 精神的活動を司る　 ・魄…陰の部分, 肉体的活動を司る

 霊魂は身体から離れることもある→動物に憑依する, 夢として現れる

* 古代日本

日本の宗教観…民俗宗教（アニミズム…自然崇拝）＋儒教・仏教

死後の霊魂→普段は山などにとどまっている

　　　　　　お盆・正月などに帰ってくる

* 身体と魂は分離可能

⇒古代インド・中国・日本に共通の考え方

２. 心の考え方（学問）

　学問的には心＝人間の行動をつかさどるもの

経済・政治・社会・心理学の辞書に『心』『精神』の項目はない

* 経済学

自己利益を追求する利己主義者という人間観がベース

人間の行動の原理＝効用の最大化

* 法律

心神喪失・心神耗弱→心の機能に障害

　　　　　　　　　⇒責任能力の問題から免罪・減刑される

　（問題：脳機能イメージングを証拠として採用？）

* 社会心理学

・心の社会性（社会心理学の一つのアプローチ）…２０世紀の中心的考え

心→ヒトが社会化のプロセスにおいて規範や価値観を内面化したもの

　　環境（社会）に適応する為の道具

３. 心の座は心臓か？脳か？

・心の座は脳　…ヒポクラテス（古代ギリシャの医者）

　　　　　　　　（※ヒポクラテスの誓い…医学倫理の最初

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ただしヒポクラテスの作ではない）

 プラトン

　　　　　　　　ガレヌス（古代ローマの医者）…脳室精気説を唱える

　　　　　　　　デカルト

・心の座は心臓…ウパニシャッド

　　　　　　　　アリストテレス

　（問題：脳死（意識の不可逆的な消滅）は人の死か？）

４. 脳機能の局在論・全体論

・局在論 localization（特定の領域が特定の機能を担う）

　　ガルの骨相学（能力はそれぞれ大脳表面の特定領域と結びつく

　　　　　　　　　→頭蓋の形から人格などを判断⇒現在では邪説）

　　失語症研究…ブローカ（運動性失語←発話が困難）

　　　　　　　　ウェルニッケ（感覚性失語←聴覚的理解が困難）

　　　　　　　　→特定の精神機能は大脳皮質の特定部位に局在

　　ブロードマンの大脳皮質地図（脳細胞の形・大きさ・密度により

　　　　　　　　　　　　　　　　１〜５２の領域を区分）

　　　　　　　　　（ブローカ野…４４・４５　ウェルニッケ野…２２）

* 局在論の問題点…高次精神機能の局在は可能か？

　　　　→様々な領域のネットワークによって実現

・全体論(神経系の総体的統合活動を重視)→局在論のアンチテーゼ

５. デカルトの考え

　心身二元論＝精神と物体の二元論　…心＝精神と身体＝物体は別の実体

　　精神　⇔　　延長（物体）→　身体（機械論的な自然法則に従う）

　　　　　分離

　　　　　松果腺（脳の器官…メラトニン（ホルモン）を分泌）が結びつける

　　　　　　→心と身体が交わるところ

方法的懐疑（疑わしくなくても疑う）

　　→「我思う故に我あり」cogito ergo sum

 疑うという事は、私の存在（実体）を前提にしている

　　　　感覚＝錯覚・不確実

　　　　存在すると信じていたものが存在しなかった→世界は存在しない？

* 実体…存在するのに他のものを必要としない

　　 (真実在…本当の存在)

 属性…存在するのに他のものを必要とする

　　　 \*実体に属しその本質を表す性質

　　　　　（ex 実体である物体の属性は延長、精神の属性は思惟）

* 心身二元論における心と身体の関係の捉え方
1. 相互作用説（互いに相互作用）
2. 随伴現象説（心的現象は物的現象に随伴）

　　　（随伴現象説の問題：心が身体に影響を与える事をどう説明するか？

1. 平行説（平行関係→互いに影響を与えない）

６. 大陸合理論とイギリス経験論

* 大陸合理論…デカルト・ライプニッツ

生得観念（生まれながらに持っている観念　idea ）はある

　→合理的推論を可能にする（ex 数学的知識）

 自然法則は必然

◇イギリス経験論…ロック・ヒューム

 生得観念の否定

　経験→認識の源泉

　　ロック：「タブラ・ラサ」心は白紙

　　　　　　（感覚的な）経験・反省→知識の獲得

　　ヒューム：自我は知識の束であって常住不変のものではない

　　　　　　　　⇔デカルト…「実在」としての精神

　　　　　　　　　プラトン…魂（心）の不滅

　　　　　　　因果性（原因→結果）の観念

　　　　　　　出来事の契機→習慣　　Ａ→Ｂ

　　　　　　　物事に必然性（自然法則）はない

７. カントの考え

　カントの哲学…大陸合理論とイギリス合理論の統合

◇　対象　　———→　　感性・受容性

（物自体）＜触発＞　⇒直観・諸表象を得る　—————→　経験的対象・現象

　　　　　　　　　　　　　　　　＜悟性による統合＞

物自体は認識不可能だが、心が触発されて直感・表象を得、それを悟性が統合する事によって、現象として認識する事が可能になる

　⇒現象は客観的に認識可能

　　＜用語＞

　　　　感性：対象から触発されて表象を獲得する能力

　　　　悟性：得られた様々な表象を総合して概念を作り出す能力

　　　　アプリオリ：経験に先立つ・論理的≠先天的・生得的

　　　　　　　　　　認識能力が自己活動によって自らの内から獲得した概念

　　　　　　　　　　ex 数学的証明

　　　　アポステリオリ：経験に由来する

　　　　物自体：人間の認識が及ばない

　　　　超越的：神・世界・魂（不死）のような、経験の限界を超えた存在

　　　　超越論的：経験の成立の条件としてアプリオリ性を持つこと

◇対象の認識の仕方はアプリオリ

 　・感性の形式→空間の形式・時間の形式

　　　・悟性の形式→総合の形式…純粋悟性概念を与える

　　　　　　　　　　　　　　ex　諸表象(色・におい・手触り)

　　　　　　　　　　　　　　　　　 ↓　　悟性が総合

　　　　　　　　　　　　　　　　　 机（経験）

◇全ての可視的現象（経験）の連関

　　→超越論的統覚によって…現象（世界）の統一

　　　　　↑論理的　　　　　　　↑自己意識の同一性が支える

　　　　　　　　　　　　　　　　　意識の統一「私は考える」

　　　　ex 机（経験）←「私が経験している」という事を伴う事が

　　　　　　　　　　　　　できなければならない

　「私」————　理性的（合理的）心理学の対象

　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　思弁的（経験によらない）

 あらゆる判断・認識　————「私」の判断

　　　　　　　　　　　　 「私」…思惟の主体

　　　　　　　　　　　　　　　　　論理的なものだが「実体」ではない

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　⇔デカルト

　　　　　　　　　　　　　主観の同一性は人格の同一性を意味しない

　　超越論的統覚　≠　経験的自己認識

８. 心理学

心理学の成立→ヴントの心理学実験室の公的認可・研究に使用されるようになった年（1879年）

・ヴント以前の主な研究

英国：連合心理学（J.S.ミル）　心は観念の連合

ドイツ：感覚研究…感覚の定量的研究

　（以後）

ジェームズ・ランゲ説…「悲しいから泣くのではなく、泣くから悲しいのだ」

 (1890)

◇ヴントの心理学…要素主義

　　　　　　　　刺激を体系的に変化させ、内観（被験者の報告）を実験

　　　　　　　　的に行う事を重視⇒実験心理学

* ヴントの実験心理学を否定する三つの潮流

・ワトソン…行動主義

　　　　　　→　＜特徴＞　客観主義（行動の観察）→内観法の否定

　　　　　　　　　　　　 末梢主義→筋収縮などの反応を手がかりとする

　　　　　　　　　　　　　SR主義→ S：stimulation 刺激

　　　　　　　　　　　　　　　　　 R: response 　反応

　　　　　　　　　　　　　　環境主義　　　　　　　　　　　　etc.

・ゲシュタルト心理学…ゲシュタルト→形態（ドイツ語）

　　　　　　　　　　全体の重視⇔ヴントの要素主義

　　　　　　　　　　　　→メロディーのように全体を一挙にとらえる

　　　　　　　　　　仮現運動（動いていない点や線を時間差で点滅させる

　　　　　　　　　　　　　　　と、人間が動きを知覚する現象）の研究

* フロイト…無意識・前意識に注目

　（精神分析）

　　　　　　　　　＜心の区分＞

　　　　　　　　　　・知覚・意識

　　　　　　　　　・前意識————意識されないが、意識に入り込む事は可能

　　　　　　　　　・無意識 (抑圧された欲望)————行動理解に不可欠

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　意識に影響を与える